

## 研究名：パーキンソン病患者における立ち座り動作の反復学習効果

### 1. 研究の対象

2022年7月～2023年2月に、高知大学医学部附属病院の脳神経内科で、「研究課題：パーキンソン病患者に対する踵補高が立ち上がり動作時間に及ぼす即時的効果－クロスオーバーデザインを用いた検討－」に参加され、運動および認知機能等を測定された患者様。

### 2. 研究目的・方法

パーキンソン病の患者さんは、寡動、固縮、姿勢反射障害といった病気の影響に加え、筋力低下や関節の柔軟性低下等による二次的要因によって、立ち上がり動作が難しくなることが指摘されています。本研究では、パーキンソン病患者における立ち座り動作が反復練習を行うことでどの程度改善しているのか、またその影響を及ぼす原因について、踵補高の効果のみたときのデータを後方視的に調査し、その効果について明らかにしようとしています。

具体的には、踵補高条件の測定を先行した18名を対象とします。そして、1回目が最速であった方、2回目が最速であった方、3回目が最速であった方を抽出します。その測定値を統計にかけ、どの程度差があるのかを検討します。さらに、なぜそのような差が出ているのか、原因を探索するため、すでに抽出しているデータや情報から解析を行います。

研究期間：2024年（倫理委員会承認日）～2024年12月31日まで

### 3. 研究に用いる情報の種類

すべて、「パーキンソン病患者に対する踵補高が立ち上がり動作時間に及ぼす即時的効果－クロスオーバーデザインを用いた検討－」に参加して頂いた患者様の以下情報を使用させていただきます。

情報：L-dopa 処方量、Dopamine transporter シンチグラフィー、MIBG 心筋シンチグラフィー、MRI、Yarh Stage、MDS UPDRSIII（パーキンソン病統一評価スケールの運動機能）、MMSE（認知機能）、膝伸展筋力体重比（足の筋力）、関節可動域 等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、

研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

〒783-8505

高知県南国市岡豊町小蓮

088-866-5811

高知大学医学部 脳神経内科学教室

研究責任者：松下 拓也